

ハイライトよねやま 73

(財)ロータリー米山記念奨学会

2006年3月13日発行

1. 寄付金速報 ～特別寄付増進を目標に

2月までの寄付金は前年同期と比べ1.8%増、約2千万円の増加でした。普通寄付金が0.02%増、特別寄付金が2.86%増です。2005年度はこれで8ヵ月連続で前年度寄付累計額を上回る結果となりました。これから PETS や地区協議会が開催されます。米山奨学事業をぜひともご紹介ください。3月以降も前年度を上回ることができるかどうかは、今後4ヵ月間の特別寄付金の納入次第です。より一層のご協力をお願い申し上げます。

2. 2006年4月新規採用の合格者が決定!

2006学年度の米山奨学金(学部・修士・博士・地区奨励)申込者は1,427名、現役奨学生の延長制度、クラブ支援奨学金には35名の申し込みがありました。全国の地区選考委員会による選考の結果、合格者625名が決定し、3月1日に各大学担当者宛に合否通知を発送しました。

今回から、他地区の学校を指定校とし、奨学生を採用できる制度がスタートしましたが、本制度をさっそく取り入れた第2770地区(埼玉県南東)では、東京大学とお茶の水女子大学から3名ずつが合格。また、第2800地区(山形)では東北大学から1名が合格しました。学部課程奨学金の対象として新たに広がった高等専門学校専攻科では、第2640地区(大阪府南部・和歌山)が指定した和歌山高専からコロンビア出身の学生が合格。新制度の地区奨励奨学金では、第2680地区(兵庫)で神戸YMCA学院専門学校などから4名が合格しました。

今後、合格者には世話クラブとカウンセラーが選定され、5月に開催されるオリエンテーションを経て、2006学年度の正式な米山奨学生となります。

3. 2006学年度版『米山奨学生ハンドブック』を発行しました



2006学年度版『米山奨学生ハンドブック』が発行されました。

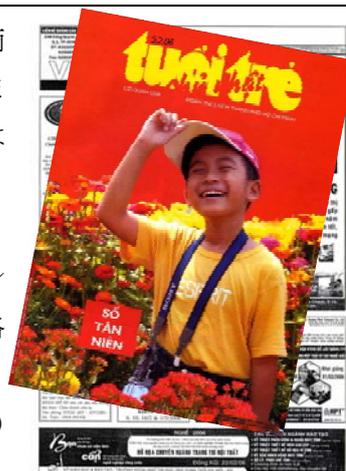
このハンドブックでは米山奨学生として「知っておくこと」「守ること」や奨学生からよく寄せられる疑問・質問に答えた「米山奨学生Q&A」などが掲載されています。今年の米山奨学金合格者と大学担当者へは、3月1日付で合格通知と一緒に送付しました。なお、前年度からの継続奨学生宛には3月末頃に世話クラブ経由でお送りする予定です。

4. 現地採用奨学金、ベトナムで募集開始

2006年2月5～6日、12～13日の計4日間、ベトナムの若者向け商業紙等に奨学生募集広告を掲載し、現地採用奨学生の募集を開始しました。3月3日現在、募集要項の請求は230件ありましたが、応募は3件です(応募締め切りは3月15日)。

今後、資格審査(3月下旬)、筆記試験による一次選考(4月下旬)を経て、6月の面接試験では、日本側の受け入れ地区のロータリアン代表者、および学務・学友委員代表者がベトナムへ出向きます。合格発表は2007年2月前後、入国は同年4月～9月を予定しています。

(掲載した雑誌『タンニャン』と『トイチエ』紙)



5. 重田政信 R I 理事 ご講演の要旨

2月6日に開催された、ガバナーエレクト／次期米山奨学委員長合同セミナーにおいて、来賓の重田政信 R I 理事がご挨拶をされた旨を先月号で紹介しましたが、「ご講演内容をもっと詳しく聞きたい」との要望が多く寄せられましたので、要旨を掲載します。

他地区合同奉仕活動の認定 RIは2004年11月の理事会で、財団法人ロータリー米山記念奨学会の、“ロータリー”という名称の使用について、「多地区合同奉仕活動」という概念のもとに、正式に認めました。なぜ米山奨学会のような立派な事業に対し、今さらのようにこの決定が出たのか？実は、「多地区合同活動」という概念は、1981年以前の手続要覧には記載がなく、当時RIは多地区合同組織について、むしろ否定的な意思表示をしています。米山奨学事業が始まった1950年代は、そういう時代であり、多地区合同活動の概念そのものもなかったため、許可申請をすることもなく、現在に至ったのだと思います。つまり米山奨学事業は、まだRIに多地区の概念もない時代にありながら、日本が世に先駆けて始めた立派な合同活動であり、当時の日本のロータリーが、「平和のための人作り」という高邁な理想を持っていたことを示しています。今回承認されたことによって、RIの制約が多くなるのではないかと懸念もあつたと思いますが、これまで通り運営していただき、私たち理事もRIに米山奨学事業の真意を十分に伝えますので、その点をご心配というか、誤解のないようお願いいたします。

中国との関係について RIが掲げる7つの長期目標に「世界中における会員基盤の増大と一体化」があります。この流れに沿って、昨年11月のRI理事会では中国へのロータリーの拡大が承認されました。結社の自由が制限されている中国本土での、中国人によるロータリークラブ結成は、現在では非常に困難でしょう。しかし、ロータリーは“人”です。クラブ結成の前に、指導者が育っていることこそ必要条件です。そこで、ロータリーの心を理解する米山学友が、将来のロータリアン予備軍として学友会を組織していれば、最も有力な支援組織になります。現時点では、中国で学友会組織を作ることはまだ困難でしょうが、何らかの形で準備していくことが、将来への大きな布石となります。現在、米山奨学生は中国の占める割合が非常に高いわけですが、中国へのロータリー拡大という将来的な視点を加味して考えていただきたいと思います。

米山奨学事業の意義 米山記念奨学会は、日本トップクラスの助成財団として立派な実績を残していますが、むしろ数量化することのできない成果にこそ、米山奨学事業の素晴らしい価値があります。フルブライト留学制度をご存じでしょうか。広島原爆投下にショックを受けた米国の上院議員が、平和を目的とした画期的な留学制度であり、世界平和のための人物交流の源流とされています。このフルブライト・プログラムが日本で開始されたのが1952年。まさに東京ロータリークラブが世界平和を目指し、米山基金の構想を始められたのと同じ年です。この先見性において、米山奨学事業の歴史的な意味が感じられます。さらに、米山奨学事業は韓国や台湾へ波及し、同じ理想のもとに活動する団体が誕生しています。また、「ロータリーの友」よねやまだよりを読みましても、次の世代に貴重な遺伝子を残していることが感じられます。これこそ、米山記念奨学事業の原点、そして夢でありましょう。これからのRIはますます人道的プログラム志向が強くなると思います。こうした状況下で、米山奨学事業の平和のための人づくりは、教育的プログラムの模範として、より重要性が増すと同時に、一層広い視野が求められることとなります。奨学生の心に残るのは契約ではなく、カウンセラーに代表されるロータリーの心でしょう。奨学生に心の感動を与えるには、まず自分が感動しなければなりません。この素晴らしい米山奨学事業を、是非皆様の地区で推進してください。

PETS・地区協議会用 米山奨学会事業紹介の資料をお送りします

PETS用:2月28日付で『豆辞典』をガバナーエレクト事務所宛に送付(クラブ数×2+予備20部)
地区協議会用:3月下旬、『豆辞典』と『米山学友の群像』をガバナーエレクト事務所宛に送付予定

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当:野津・大庭^{のつ おおば}
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
Tel:03-3434-8681 Fax:03-3578-8281
E-mail:highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL:http://www.rotary-yoneyama.or.jp/